

日時：2020年9月26日 13:30-

手法：ZOOM

◇冒頭に宿題の共有

○最も大きな問題は何か

○その原因は何か、変化の要因・どう変わったのか・なにがそれをもたらしたか

【何が問題か】

- ・悲観的に考えてしまう問題が多い
- ・無関心は大きな問題
- ・すべての原点は教育だと思う
- ・コロナへの対応を見ていると、不可能だと思っていたことが可能かもしれないと思えることもある。環境も同じように問題視したら可能。でも実際は温暖化を危機感としてもてない
- ・環境の説明の仕方を変えねばならない⇒政策も変化
- ・「地球に住めなくなる日が来る」という本や、ユーチューブなどを見入ると、危機感が伝わる
- ・いろいろな人がいて、例えば得するから動くという人は、危機感で動かない
- ・無関心も問題だが、強欲が問題ではないか
- ・今の若い人達に強欲な人たちはいない。当たり前前に生きている。しかし染まりやすい

？グローバル経済が止まったらどうなる？地産地消で成り立つのでは

- ・日本の農業状態的に、自給率達成度的にも難しい
 - ・畜産物の輸入がほとんど。農機具として使う機材も石油。石油も輸入なので難しい
- ※既に「食と環境倫理」で議論済みなので、それを参照のこと

【進め方】

- ・倫理部会として、環境危機の伝え方「どうやって、どういう風に、進めていくか」。具体的な議論が必要ではないか。人間の行動を変えられるようなアプローチ
 - ・現時点では、「何を伝えるか」がまだ具体的に決まっていないので、ここではそうした議論をしているところ
 - ・まずは共通認識をすり合わせるべき。現象面としてミクロからマクロまで。原因は教育なのか、経済なのか、こころの問題か。対策は力点が異なり、立場によって変わってくる
 - ・ある程度、現象や原因については共通認識がとれているのではないかと思う
 - ・経済に関しては悲観論もあるが、ニュートラルな考え方もできる。
-
- ・日本人は社会的な行動が少ない。「わかる⇒行動」の足が重たい
 - ・それらは傾向であり、インセンティブとしての仕組みづくりが必要
 - ・経済そのものは悪い訳ではない、経済は必須である⇒どういう経済を成り立たせるか、その一つが地産地消など
 - ・短期的には地産地消から経済の仕組みを考え、長期的には教育の仕組みなど、並行して行うことも必要ではないか（インセンティブとなるような具体的事項から総論へ？）

- ・システムづくりを進めていくためにどうした方がいいのか？ということと、そのベースになる倫理（個人の倫理、社会としての倫理）」の議論が必要で、それが今回の出発点だった
- ※地産地消にはほぼ全員賛成

【構成】

必須 **システム** 例：地産地消⇔経済の仕組み、
少人数学級？基本法見直し？大学教育の見直し？⇔教育の仕組み



具体的な生活のあり方 新しい生活の提案



必須 **(環境) 倫理** 社会としての倫理、個人としての倫理